

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5年 3月 14日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200809		
法人名	株式会社 富山学園		
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 光南		
所在地	広島市中区光南2-20-15 TEL 082-247-2080		
自己評価作成日	令和5年2月12日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3490200809-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和5年2月28日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

リバーサイドに位置し苑の向かいには公園があります。その先には本川に沿った遊歩道が通っており四季折々の花をご覧になりながら外気浴を楽しまれ、また季節の移り変わりを感じて頂いています。向かいの公園では外気浴をしている近隣の園児との交流や、町内で行われる納涼祭に向いて社会との関わりを持って頂いています。日々の大切な食事作りでは、利用者様に一人ひとりに適した形態を提供させて頂いて楽しさと安全な食事となるよう努めております。スタッフ一同、理念を念頭に置き利用者様のできていることへの支援、できないことへの支援を行い笑顔あふれる生活が送られるよう努めております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームほのぼの苑光南の特徴的な取り組みは、身体拘束をしないための取り組みと、災害対策、楽しみとなるような食事の工夫である。感染症予防を目的とした、家族面会の制限が長期化し、利用者の生活や行われている介護の状況が外部の目に触れる機会が減少する中で、代表者や管理者が職員に具体的な状況を各自振り返り、職員同士で相互に注意しながら、身体拘束廃止に取り組んでいる。災害については、毎月の訓練実施と、備えている発電機の操作や食品の試食を行うことで、実際に必要な場面を想定して有事に備えている。献立は、昼食と夕食のバランスを考えて好きなものを取り入れたり、外食をイメージした取り合わせにするなど、食べること、調理に参加すること、見て楽しむことにも工夫を凝らしている。

自己評価	外部評価	項 目（ 3Fユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各ユニット及び事務所に理念を掲示している。朝の申し送りの後に皆で唱和している。理念に添った支援を行い介護記録に記載している。	採用後のオリエンテーションを活用して、管理者から事業所の理念がつけられた経緯や込められた思いを職員に伝えている。また、日常のケアや利用者への接し方が、理念の実践につながる行動となるように、管理者が意識的に動機付けを行うことで、職員の行動変容を促す工夫を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入して町内の行事等を把握している。町内大掃除や納涼祭、とんど祭りに参加している。敬老会やバレンタインデーなど町内から利用者へ贈り物を頂くなど交流がある。	地域の情報は回覧板の閲覧で情報を得ることができ、町内会が主催する地域の清掃や赤い羽根共同募金などに、事業所や管理者が参加している。利用者と職員が散歩に出る際に、地域住民と挨拶や会話を交わすなど、日常的に交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議において社会福祉協議会会長や町内会長、民生委員会長の方々に出席いただいて利用者の苑内での生活や活動などをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で利用者の生活面や活動をプロジェクターを用い説明を加えながら見て頂いている。また、テーマを持ち医師や市職員など有識者からの講座を実施している。現状は会議を中止しているため活動等の資料を参加者に送付し意見等頂いている。スタッフに、それを回覧している。	運営推進会議は、開催中止の通知に意見照会の用紙を同封し、意見を聴取しており、質疑があった場合は、管理者が質問者に文書で回答を行い、これまでに築いてきた関係を維持するための取り組みを継続している。会議で提起された意見から、新たに口腔体操を取り入れて実施している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議出席は難しく会議報告書や2ヶ月に1回発行する施設の通信誌を送付している。介護保険更新時に助言を頂いている。運営推進会議中止に際し、地域包括支援センターからの質問等を書面でお答えしている。	運営推進会議の実施報告書や、事業所通信などは、市の担当課と地域包括支援センターに郵送している。コロナ禍の影響を受け、市の担当者や地域包括支援センターの職員と直接会う機会はないが、市が主催する指定更新に必要な研修や、集団指導などはリモートで受講している。	

自己評価	外部評価	項 目 (3Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を3カ月毎に実施し、介護業務を行う上で身体拘束になり兼ねない言動がないか利用者を取り上げテーマを決め意見交換を行っている。直近では、スタッフそれぞれが「尊厳」のとらえ方を発言し合い意見交換した。	事業所では、グレーゾーンや問題となる行動について取り上げ、言葉遣いや言葉かけ、誤解を招かない介助の方法を学び、具体的な身体拘束について正しい知識を習得する機会を設けている。課題の多い利用者には、本部から助言や指導を受け、チームで課題解決に向け取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の研修に必ず出席している。苑内での研修も増やし学んでいる。また、月に1回「虐待の芽チェックリスト」を用い各自チェックし施設長に提出している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前は、利用者に成年後見人制度を利用している方がいた。この制度について市職員から講義を受けたことがあり、スタッフ会議の中で勉強会をしたことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は分かりやすい説明ができるよう心がけ、区切りのいいところで質問の有無を確認しながら、理解が得られるよう努めている。また、不安や疑問などについて問いかけを行い話しやすいように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の日々の会話の中から思いを汲み取ったり、答えやすい問いかけを行い確認している。必要時、家族に連絡し家族の思い、あるいは要望を確認している。家族から「飲ませてやりたい」とサプリメントをお預かりし飲んでいる利用者がおられる。	利用者の意見は、そのまの言葉と動作、態度を記録に残し、申し送りで共有している。家族の意見は、電話や利用者の通院同行で事業所へ来た際に聴取している。主に食に関する希望や、利用者の嗜好に配慮した個別対応、面会への希望等を状況に応じて反映している。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (3Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回、社長出席のもとスタッフ会議を行っている。職員全員が各業務（感染・事故・設備・防災・行事）の担当を持ち全員が発言しその中で社長と意見交換ができています。管理者は日々の業務の中でコミュニケーションをとり思いを聴くよう努めている。	代表者と管理者は、毎月実施している会議に出席し、職員の意見を聞く機会を設けている。管理者と職員は、毎日の申し送りや、適宜、事務所で意見交換を行っている。調理に関する業務について、職員個人の能力に合わせて過度な負担がかからないように献立を検討した例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の能力や日頃の努力を加味して昇給や賞与に反映している。新人職員に対しての指導等に関して、ともに働ける仲間となれるような指導を心がけることを、常日頃から管理者をはじめ全職員へ向け発信している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内外に関わらず必要に応じ研修を受けている。研修後はスタッフ会議の中で伝達研修を行い他のスタッフも学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修参加において同席した同職種の方々とグループワークを通し各事業所の問題点や良いところなどの意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネジャーや病院相談員からの情報収集をもとに面談を行っている。その際に、本人にとの対話や家族からのこれまでの暮らしぶり、習慣などを聞き取り、困っていることや不安に思っていることなどを話しやすいような問いかけに心がけ傾聴している。		

自己評価	外部評価	項 目 (3Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネジャーや病院相談員からの情報収集をもとに困っていることや不安に思っていることなどを会話時間を長く持ち、傾聴に徹し話しやすいような問いかけに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談やケアマネジャー、ご家族からの情報収集などから必要と思われる支援を見極め実践可能なサービスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の好むことや得意なこと、これまでの生活の中でされていたこと、家族からの聞き取りで得た性格的なことなどの情報をベースとして生活の中で利用者を知ることにも努めている。食事を共にしたり、会話の中に過去の話題を盛り込み利用者から発言できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者から家族へあるいは家族から利用者へ、伝言をお伝えしたり電話使用の可能な方には取次ぎをしている。家族への連絡を密にしてお互いの思いが近付くよう調整等に努めている。面会時は環境を整えゆったりくつろげるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	身内以外の繋がりを継続している利用者は少ないのが現状である。コロナ禍、利用者から家族あてに年賀状を出せるよう取り組んだこともある。	家族との面会は、コロナ禍の影響を受け、限定された機種を使用したオンラインと、扉越しの面会を継続している。友人からの電話を取り次いだり、年賀状の宛名を書き、書くことが難しい利用者へは職員が代筆するなどして、関係が途切れないよう支援している。	

自己評価	外部評価	項 目（ 3Fユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士のコミュニケーションが図れるようスタッフが会話の架け橋をしたりレクリエーションをする際は利用者同士の席を近づけるなど配置の工夫を行い交流に繋げている。そういう場を好まない利用者には無理強いせずスタッフのフォローで孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約が終了された利用者は逝去された方々のため、連絡は控えている。毎年8月には合同法要をさせて頂いており家族には案内をお出ししている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを汲み取れるよう、会話や情報の中から日常生活に取り入れている。その方に合った話し方や選択できる説明を行い無理強いするような対応にならないよう行動や表情を観察している。	これまでの暮らし方の様子を家族から聞き取り、自宅と変わらない生活ができるように工夫している。意向の表出が困難な利用者には、元気な頃の様子を想像して支援方法を検討したり、接しながら利用者の反応を見ながら、対応方法を変えてより良いケアとなるよう検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	自宅で使用されていた寝具を持参されたり、日課として使用しているクリームや化粧水などの日用品を切らさないよう管理しご家族に依頼したり購入代行をしている。在宅生活で飲んでおられたお茶の管理をしてお出ししている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者ひとり一人と関りを持ち認知症症状や体調、残存能力の変化を把握し全職員で気づきを上げている。それらの情報を共有するため、施設長、看護師、ケアマネジャー、利用者担当者が申し送りで発信し、さらに連絡ノートにも記載して現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 3Fユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員が利用者の観察を行い、利用者の受持ち担当を決めており個別で気づきを発信する等、それらを家族の要望も踏まえ介護計画作成に反映している。3カ月ごとにモニタリングを行っている。膝痛があり立位保持困難でも本人希望のトイレ使用をプランに反映し実施している。	利用者一人ひとりを職員が担当し、観察することで、利用者の得意なことや、好きなことを生活意欲の向上につなげたり、利用者の意向に添い、可能な限り自立を支援している。計画は3か月毎に見直し、必要に応じて看護師や主治医へ意見を求めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、介護記録を記入している。ケアプランに添った記録内容や行動と共に発する言葉なども必要時記入している。特に体調変化や不穏時の言動、事故など詳細に記述している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問理美容での散髪を利用して頂いている。行きつけの美容院へ外出したことや訪問マッサージを利用していた例もある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内行事の参加や近隣のスーパーなどで買い物をする。散歩中に会える近隣の方たちとの挨拶や公園で外気浴している園児たちと交流することがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居以前のかかりつけ医も家族の協力を得て継続することは可能である。協力医（内科、歯科）の往診が月2回あるが体調変化や急変、突発的な事故など報告し対応される。救急搬送や入院等その先の医師に情報提供がなされている。協力医には、本人や家族の意向を必要時お伝えしている。	利用者、家族が希望した医師の診察を受けることができる。訪問診療に対応していない病院への通院は、家族へ送迎と付き添いの協力を依頼している。看護師と管理者が医療機関へ電話や文書を用いて利用者の情報提供を行い、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項 目 (3Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護士は、日常の中で顔色や発語、身体に触れた時のなどの体熱などで体調変化に気づきがあれば看護師に報告している。排泄物の性状や入浴時の皮膚の観察など行い気づきを報告している。看護師からも内服薬の変更や医師からの指示などを介護士に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師と協力医の連携が取られ必要な情報を提供している。施設長及びケアマネジャーが病棟看護師や医療連携室の担当者から病状や治療方針、退院予定などの情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、家族から看取りについて質問を受けたり、あるいは看取りまで考えた入居を希望されることがある。実践したことを踏まえ具体的に説明している。重度化した場合、主治医より病状説明を行っている。家族の気持ちや考えをその時々で確認し施設の介護力を踏まえ誠実に対応している。	利用開始時に重度化した場合の指針について説明を行い、その時の家族の要望に応じて、より詳しく説明している。看取りに関する勉強会の実施と、緊急時の連絡方法を定め、体制の整備や職員の不安感を取り除く工夫を行っている。終末期には、制限を一部緩和し家族と会えるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルを作成し全スタッフが周知している。スタッフ会議の中で「危険予知訓練」の学習や看護師による緊急時対応の勉強会を繰り返し行っている。夜間の緊急時対応について手順や連絡網を全スタッフが手元に持ち把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月1回、利用者と共に消防訓練を行い消防署より水消火器を借り、消火訓練も定期的に行っている。水害に備え土嚢や各居室に救命胴衣を準備している。昨年の大雨の際は土嚢を使用し、防災訓練では救命胴衣の着脱や実際に防災食を食している。3日分の水・食糧の備蓄と発電機を完備している。	日中の火災を想定した避難・救出訓練は、利用者も参加し火元を変えて行い、夜間は職員のみでシュミレーションを実施している。利用者の各居室には、ライフジャケットを用意し、着脱の練習や必要とする介助量と、支援の順番を把握している。	

自己評価	外部評価	項 目（ 3Fユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いや声かけの仕方など、馴れ馴れしくならないよう節度を持ち、職員間で注意をし合いながら接遇を行っている。トイレや入浴など羞恥心に配慮し、声の大きさやトイレのドアを必ず閉めるなどプライバシー保護に努めている。利用者不在の居室に入る時は必ず了承を得て入室している。	面会制限の長期化により、事業所内に家族や、地域関係者の立ち入りがいない状況下であるが、実際に利用者の家族がこの場に居ると想像して介助を行う等の具体例を提示して職員に伝えている。また、不適切な介助と思われるケースを題目として意見交換を行い、代替する言動を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	共同生活を営む中で、ひとり一人の生活ペースを尊重できるよう心がけている。自室で過ごしたい利用者には集団活動を無理強いせず、軽作業やレクリエーションの内容も好む好まないを見極め提供している。自己決定のはっきりしない利用者には返答しやすい言葉かけを行い思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな1日のスケジュールをユニットに貼り利用者の体調や生活リズムに合わせて実行しその時々で順番を変更している。お過ごしいただく場も自室だったり、ソファに掛けて過ごされたり、思うようにして頂いている。入浴への拒否があれば間を置いたり、日にちを変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1～2回の散髪や日々の整容で身だしなみをされている。洋服選びが困難な利用者には色合いなど考え介助している。寒がりあるいは暑がりの利用者に合わせた衣類を選んでいる。毎朝、クリームや化粧水を使用される利用者には手渡して塗って頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いを把握し代替え料理を含め、季節の食材を盛り込んだ一汁三菜の献立を1ヵ月分作成している。温かいものを温かいうちに配膳している。年に1回、屋外のランチタイムやバイキング形式の昼食で気分転換や楽しみになることに繋げている。利用者は、盛り付けや下ごしらえなど参加している。	利用者の能力や意欲を活かして、野菜の下ごしらえや、盛り付けを行っている。四季折々の献立で季節を感じ、気候のよい時期には、屋外で食事をとることもある。年に1度のバイキングや、誕生日には、好きなものを選んで食べられる機会があり、食事を楽しめるように工夫している。	

自己評価	外部評価	項 目 (3Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事・水分摂取量を毎日記録している。 同じ料理法でも、好みの調味料やソース 等を把握して提供している。咀嚼力や嚥 下能力を見極め利用者に合った形態やト ロミ剤の使用、好き嫌いが生じる時は代 替えの料理を提供し、安全で楽しみのあ る食事になるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケア自立の利用者にはブラッシング あるいは義歯洗浄して頂いている。利用 者全員、職員による歯間ブラシも使用し た仕上げ磨きを行っている。歯科の往診 があり歯科衛生士による口腔ケアを実施 している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い、排便管理や尿 意・便意の曖昧な利用者には排泄リズム を把握し定期的にトイレ誘導を行うこと でパット内の失敗が減少できている。睡 眠を優先するため夜間のみオムツ使用で も起床時にリハビリパンツに交換し、日 中はトイレを使用して頂いている。	一人ひとりの能力を活かして、夜間はオ ムツを使用している利用者も、日中はト イレで排泄ができるように工夫してい る。トイレに座るために必要な、立ち上 がり動作練習や、下肢筋力維持のために 足踏みを行い、排泄の自立を支援してい る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表を毎日チェックし、医師指示の薬 を用い看護師による排便コントロールマ ニュアルを作成している。また、緩下剤 や座薬だけでなく毎日、ヨーグルトや ホットミルクなどの提供やウォーキング や体操、下腹部のマッサージを取り入れ 滞ることのないよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	皆様、入浴を好まれるが「帰って入る けえ、ええ。」と言われることもあり、 苑内を会話しながらウォーキングし浴室 へ誘導する工夫をしたり、介助者を女性 限定の利用者には必ず女性スタッフが介 助を行う。ゆず湯や入浴剤を使うことも あり無理強いせずリラックスできる入浴 になるよう努めている。	入浴に嫌悪感を示す利用者には、時間帯 や日程を変更して対応している。利用者 が希望した場合は、同性介助が可能であ る。冬至にはゆず湯を行い、以前から使 用している保湿剤や、好みの化粧水の利 用もできる。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (3Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ほぼ一日リビングで過ごされる (午睡の習慣がない) 利用者の表 情や会話などで様子を観察し、休 息への声かけを行っている。夜間 は20時までには着床されぬい ぐるみを抱き休まれる利用者も いる。良眠されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目 的や副作用、用法や用量について 理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている。	看護師が内服薬について用法・用 量、副作用の説明をしている。ま た、薬剤師が準備した内服薬を ケースに一日ごとにセットし誤薬 等が起きないように管理している。 内服後の変化や気づきを看護 師に伝え、看護師から医師へ報 告し服薬調整や変更をされ体調 管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	簡単な家事や軽作業などを役割 として持って頂き、生活歴から 知り得た趣味や好んでしてお られたこと(ぬり絵、習字、裁 縫など)ができる環境を準備し 達成感や充実感を味わって頂 けるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援している。	近隣の散歩を積極的に行い外 気に触れて頂いている。他に屋 上やベランダも利用する。散歩 中には動物や近隣の園児たち とのふれあいや地域の方々と 交わす挨拶など社会との関り と気分転換に繋げている。年 に1回程度外食支援ができる よう努めている。	ベランダや、屋上、敷地内駐 車場で外気浴を行ったり、少 人数で安全に配慮しながら、 車いすの利用者も近くの公園 や、川土手へ散歩に出かけて いる。天気の良い暖かい日には、 屋上に洗濯物を干し、川の 水面が太陽光を反射している のを眺めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	支払いを気にされ、お金のこ とを話されることはあるもの の持っている方はおられない。 特に、支障がないことから金 銭的な会話をすることがなく 持ちたいとの要求もないため 検討していない。		

自己評価	外部評価	項 目 (3Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から電話を受けた際は、自室内であったり、テーブル席であったり希望の場所で会話されている。その際は話しやすい環境を整えている。また、電話をかけることについても希望を聞いたりお勧めするなど対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やリビングには花や観葉植物を置き、ベランダや施設の入り口に花を植え観賞されると共に役割として水やりをされる。ユニットではその月にふさわしい絵を入れた毎月のカレンダー作りや季節を表す花や風景画を共同で作成され飾っている。	清掃専門の職員を配置し、週6日、共用部の清掃と、手すり、トイレの消毒を行っている。換気は定期的の実施し、トイレは汚れたら都度掃除を行い清潔に保つよう努めている。日中は自然採光で十分な照度が確保できる場合には、照明を切るようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは、皆様定位置にお掛けになりコーヒータ임을過ごしたり、テレビをご覧になり会話を楽しんでいる。その時々でソファへ移りベランダの花をご覧になったり、外を眺め過ごされる。自室で休んでおられる方には訪室し様子を見ながら声かけをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅での持ち込みを自由にして頂いている。利用者が書いた油絵や興味を示す絵画の本、使い慣れた寝具一式や乳液、化粧水を持たれる。備え付けのチェストにはご主人の写真を飾っている。落ち着いた過ごせるよう環境整備に心がけている。	居室のシーツは、週に1度、または汚れた場合は随時交換している。利用者の日常生活動作や、生活様式に合わせて家具を配置するように工夫している。居室には、趣味の品や家族の写真を飾ったり、使い慣れた寝具や、籐の家具を置き、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内のベッドの位置を、個々に適した配置と高さ調整を行い自力での起居動作と安全な動線を確保している。車椅子利用者でも立位保持可能な利用者にはトイレを必ず使用してもらい残存能力維持に繋げている。		

V アウトカム項目(3Fユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2Fユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	各ユニット及び事務所に理念を掲示している。朝の申し送りの後に皆で唱和している。理念に添った支援を行い介護記録に記載している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入して町内の行事等を把握している。町内大掃除や納涼祭、とんど祭りに参加している。敬老会やバレンタインデーなど町内から利用者へ贈り物を頂くなど交流がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議において社会福祉協議会会長や町内会長、民生委員会の方々に出席いただいて利用者の苑内での生活や活動などをお伝えしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の中で利用者の生活面や活動をプロジェクターを用い説明を加えながら見て頂いている。また、テーマを持ち医師や市職員など有識者からの講座を実施している。現状では会議を中止しているため、活動等の資料を参加者に送付し意見等頂いている。スタッフに、それを回覧している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議出席は難しく会議報告書や2ヶ月に1回発行する施設の通信誌を送付している。介護保険更新時に助言を頂いている。運営推進会議中止に際し、地域包括支援センターからの質問等を書面でお答えしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2Fユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会を3カ月毎に実施し、介護業務を行う上で身体拘束になり兼ねない言動がないか利用者を取り上げテーマを決め意見交換を行っている。直近では、スタッフそれぞれが「尊厳」のとらえ方を発言し合い意見交換した。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止の研修に必ず出席している。苑内での研修も増やし学んでいる。また、月に1回「虐待の芽チェックリスト」を用い各自チェックし施設長に提出している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前は、利用者に成年後見人制度を利用している方がいた。この制度について市職員から講義を受けたことがあり、スタッフ会議の中で勉強会をしたことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は分かりやすい説明ができるよう心がけ、区切りのいいところで質問の有無を確認しながら、理解が得られるよう努めている。また、不安や疑問などについて問いかけを行い話しやすいように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者の日々の会話の中から思いを汲み取ったり、答えやすい問いかけを行い確認している。必要時、家族に連絡し家族の思い、あるいは要望を確認している。要望が多くある利用者の思いは傾聴し家族とその都度会話して、必要の有無を確認し合っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回、社長出席のもとスタッフ会議を行っている。職員全員が各業務（感染・事故・設備・防災・行事）の担当を持ち全員が発言しその中で社長と意見交換ができています。管理者は日々の業務の中でコミュニケーションをとり思いを聴くよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は職員の能力や日頃の努力を加味して昇給や賞与に反映している。新人職員に対しての指導等に関して、ともに働ける仲間となれるような指導を心がけることを、常日頃から管理者をはじめ全職員へ向け発信している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	社内外に関わらず必要に応じ研修を受けている。研修後はスタッフ会議の中で伝達研修を行い他のスタッフも学んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	研修参加において同席した同職種の方々とグループワークを通し各事業所の問題点や良いところなどの意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアマネジャーや病院相談員からの情報収集をもとに面談を行っている。その際に、本人にとの対話や家族からのこれまでの暮らしぶり、習慣などを聞き取り、困っていることや不安に思っていることなどを話しやすいような問いかけに心がけ傾聴している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ケアマネジャーや病院相談員からの情報収集をもとに困っていることや不安に思っていることなどを会話時間を長く持ち、傾聴に徹し話しやすいような問いかけに心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前の面談やケアマネジャー、ご家族からの情報収集などから必要と思われる支援を見極め実践可能なサービスができるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の好むことや得意なこと、これまでの生活の中でされていたこと、家族からの聞き取りで得た性格的なことなどの情報をベースとして生活の中で利用者を知ることにも努めている。食事を共にしたり、会話の中に過去の話題を盛り込み利用者から発言できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	利用者から家族へあるいは家族から利用者へ、伝言をお伝えしたり電話使用の可能な方には取次ぎをしている。家族への連絡を密にしてお互いの思いが近付くよう調整等に努めている。面会時は環境を整えゆったりくつろげるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	古くからの友人から電話連絡を受ける利用者がいるが、身内以外の繋がりを継続している利用者は少ないのが現状である。コロナ渦、利用者から家族あてに年賀状を出せるよう取り組んだこともある。		

自己評価	外部評価	項 目 (2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士のコミュニケーションが図れるようスタッフが会話の架け橋をしたりレクリエーションをする際は利用者同士の席を近づけるなど配置の工夫を行い交流に繋げている。そういう場を好まない利用者には無理強いせずスタッフのフォローで孤立しないよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	療養型病院へ入院のため退去された利用者の家族にご様子をお聞きするため連絡をさせていただいた。逝去され退去されたご家族には連絡を控えている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者の思いを汲み取れるよう、会話や情報の中から日常生活に取り入れている。その方に合った話し方や選択できる説明を行い無理強いするような対応にならないよう行動や表情を観察している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	使い慣れた家具や椅子を置かれたり、掛け軸やお面を飾っている方がおられる。年末には、ご家族が翌年のカレンダーを準備され楽しみに掛けている利用者もおられる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者ひとり一人と関わりを持ち認知症症状や体調、残存能力の変化を把握し全職員で気づきを上げている。それらの情報を共有するため、施設長、看護師、ケアマネジャー、利用者担当者が申し送りで発信し、さらに連絡ノートにも記載して現状の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目（ 2Fユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	全職員が利用者の観察を行いまた、利用者の受持ち担当を決めており個別で気づきを発信する等、それらを家族の要望も踏まえ介護計画作成に反映している。3カ月ごとにモニタリングを行っている。車椅子使用の利用者に立ち上がり運動をプランに盛り込み実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、介護記録を記入している。ケアプランに添った記録内容や行動と共に発する言葉なども必要時記入している。特に体調変化や不穏時の言動、事故など詳細に記述している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	訪問理美容での散髪を利用して頂いている。孫の結婚式のため、家族と連携を取り数日前から様々な準備をして外泊された例がある。年に1回程度であるが外食を楽しんで頂くよう外出支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	町内行事の参加や近隣のスーパーなどで買い物をされる。散歩中に会える近隣の方たちとの挨拶や公園で外気浴している園児たちと交流することがある。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居以前のかかりつけ医も家族の協力を得て継続することは可能である。協力医（内科、歯科）の往診が月2回あるが体調変化や急変、突発的な事故など報告し対応される。救急搬送や入院等その先の医師に情報提供がなされている。協力医療には、本人や家族の意向を必要時お伝えしている。		

自己評価	外部評価	項 目 (2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の () 内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護士は、日常の中で顔色や発語、身体に触れた時のなどの体熱などで体調変化に気づきがあれば看護師に報告している。排泄物の性状や入浴時の皮膚の観察など行い気づきを報告している。看護師からも内服薬の変更や医師からの指示などを介護士に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医師と協力医の連携が取られ必要な情報を提供している。施設長及びケアマネジャーが病棟看護師や医療連携室の担当者から病状や治療方針、退院予定などの情報を得ている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	契約時に、家族から看取りについて質問を受けたり、あるいは看取りまで考えた入居を希望されることがある。実践したことを踏まえ具体的に説明している。重度化した場合、主治医より病状説明を行っている。家族の気持ちや考えをその時々で確認し施設の介護力を踏まえ誠実に対応している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時のマニュアルを作成し全スタッフが周知している。スタッフ会議の中で「危険予知訓練」の学習や看護師による緊急時対応の勉強会を繰り返し行っている。夜間の緊急時対応について手順や連絡網を全スタッフが手元に持ち把握している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎月1回、利用者と共に消防訓練を行い消防署より水消火器を借り、消火訓練も定期的に行っている。水害に備え土嚢や各居室に救命胴衣を準備している。昨年のおおしぐわい大雨の際は土嚢を使用し、防災訓練では救命胴衣の着脱や実際に防災食を食している。3日分の水・食糧の備蓄と発電機を完備している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2Fユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	言葉使いや声かけの仕方など、馴れ馴れしくならないよう節度を持ち、職員間で注意をし合いながら接遇を行っている。トイレや入浴など羞恥心に配慮し、声の大きさやトイレのドアを必ず閉めるなどプライバシー保護に努めている。利用者不在の居室に入る時は必ず了承を得て入室している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	共同生活を営む中で、ひとり一人の生活ペースを尊重できるよう心がけている。日課として午睡される利用者への尊重や軽作業や工作などのレクの内容も好む好まないを見極め提供している。自己決定のはっきりしない利用者には返答しやすい言葉がけを行い思いを汲み取っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	大まかな1日のスケジュールをユニットに貼り利用者の体調や生活リズムに合わせて実行しその時々で順番を変更している。お過ごしいただく場も自室だったり、ソファに掛けて過ごされたり、思うようにして頂いている。入浴への拒否があれば間を置いたり、日にちを変更している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	月に1～2回の散髪や日々の整容で身だしなみをされている。洋服選びに迷いがある方には助言している。また、衣類の整理や収納をスタッフと共に行き安心に繋げている。寒がりあるいは暑がりの利用者に合わせた衣類を選んでいる。元日や誕生日など薄化粧で過ごされる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好き嫌いを把握し代替え料理を含め、季節の食材を盛り込んだ一汁三菜の献立を1ヵ月分作成している。温かいものを温かいうちに配膳している。年に1回、屋外のランチタイムやバイキング形式の昼食で気分転換や楽しみになることに繋げている。利用者は、盛り付けや下ごしらえなど参加している。		

自己評価	外部評価	項 目 (2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をし ている。	食事・水分摂取量を毎日記録している。 同じ料理法でも、好みの調味料やソース 等を把握して提供している。咀嚼力や嚥 下能力を見極め利用者に合った形態やト ロミ剤の使用、好き嫌いが生じる時は代 替えの料理を提供し、安全で楽しみのあ る食事になるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔ケア自立の利用者にはブラッシング あるいは義歯洗浄して頂いている。利用 者全員、職員による歯間ブラシも使用し た仕上げ磨きを行っている。歯科の往診 があり歯科衛生士による口腔ケアを実施 している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄のパターン、習 慣を活かして、トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を用い、排便管理や尿 意・便意の曖昧な利用者には排泄リズム を把握し定期的にトイレ誘導を行うこと でパット内の失敗が減少できている。睡 眠を優先するため夜間のみオムツ使用で も起床時にリハビリパンツに交換し、日 中はトイレを使用して頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄表を毎日チェックし、医師指示の薬 を用い看護師による排便コントロールマ ニュアルを作成している。また、緩下剤 や座薬だけでなく毎日、ヨーグルトや ホットミルクなどの提供やウォーキング や体操、下腹部のマッサージを取り入れ 滞ることのないよう努めている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように、職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に、個々に応じた入浴の支援をしてい る。	皆様、入浴を好まれるが「今日はええ わあ」と話された時には、時間を変えたり 翌日に変更して対応している。無理強 いすることは行っていない。ゆず湯や入 浴剤を使用することもあり、リラックス できる入浴となるよう努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目 (2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、 安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。	ほぼ一日リビングで過ごされる (午睡の習慣がない) 利用者の表情 や会話などで様子を観察し、休 息への声かけを行っている。日課 として午睡される利用者には室 内の環境を整え、合間に訪室し て様子を確認している。夜間は 20時までには着床され良眠され ている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	看護師が内服薬について用法・ 用量、副作用の説明をしている。 また、薬剤師が準備した内服薬 をケースに一日ごとにセットし 誤薬等が起きないように管理し ている。内服後の変化や気づきを 看護師に伝え、看護師から医師 へ報告し服薬調整や変更をされ 体調管理を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	簡単な家事や軽作業などを役割 として持って頂き、生活歴から 知り得た趣味や好んでしてお られたこと(ぬり絵、習字、裁 縫など)ができる環境を準備し 達成感や充実感を味わって頂 けるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普 段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。	近隣の散歩を積極的に行い外 気に触れて頂いている。他に屋 上やベランダも利用する。散歩 中には動物や近隣の園児たち とのふれあいや地域の方々と 交わす挨拶など社会との関り と気分転換に繋げている。年 に1回程度外食支援ができる よう努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	持つことで安心が得られるた め、家族の希望がありお札の入 った財布を持っている利用者 がいる。定期的に2名のスタッ フで中身を確認し記録してい る。		

自己評価	外部評価	項 目 (2Fユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族から電話を受けた際は、自室内であったり、テーブル席であったり希望の場所で会話されている。その際は話しやすい環境を整えている。また、電話をかけることについても希望を聞いたりお勧めするなど対応している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やリビングには花や観葉植物を置き、ベランダや施設の入り口に花を植え観賞されると共に役割として水やりをされる。ユニットではその月にふさわしい絵を入れた毎月のカレンダー作りや季節を表す花や風景画を共同で作成され飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングでは、皆様定位置にお掛けになりコーヒータ임을過ごしたり、テレビをご覧になり会話を楽しんでいる。その時々でソファへ移りベランダの花をご覧になったり、外を眺め過ごされる。自室で休んでおられる方には訪室し様子を見ながら声かけをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	自宅での持ち込みを自由にして頂いている。自宅で使用しておられた籐の椅子や掛け軸、能面など飾っておられる。また、家族の写真を飾るなど落ちついて過ごせる環境整備に心がけている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内のベッドの位置を、個々に適した配置と高さ調整を行い自力での起居動作と安全な動線を確保している。車椅子利用者でも立位保持可能な利用者にはトイレを必ず使用してもらい残存能力維持に繋げている。		

V アウトカム項目(2Fユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
		○	④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の3分の2くらいが
			③職員の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の3分の2くらいが
			③利用者の3分の1くらいが
			④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の3分の2くらいが
			③家族等の3分の1くらいが
			④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームほのぼの苑光南

作成日 令和5年4月18日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点, 課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	49	業務に追われる時など 利用者の外出支援（散歩・外気浴）ができないことがある。	1日1名～2名の利用者に近隣の散歩へ外出していただく。	毎朝、申し送りの中で利用者の名前と外出する時間を決め実行する。そのための時間配分を考えた業務をこなしていく。	6か月
2	35	施設内で、防災訓練や消防訓練を行っているが、地域の方々と合同訓練が行えていない。	近隣の民家が火事の想定で地域の方々と消防訓練を行う。	町内会長、民生委員会長に相談する。 地域で行われている訓練を把握する。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。